

韓国

景気回復ペースは緩やかに

SMBC Asia Monthly

日本総合研究所 調査部
 研究員 呉 子婧
 wu.zijing@jri.co.jp

■輸出減速が景気回復の重し

韓国では、景気回復が続いている。2023年10～12月期の実質GDP(季調値)は前期比+0.6%と、4四半期連続でプラスとなった(右上図)。世界的な半導体需要の持ち直しに加え、各国の電気自動車(EV)販売の増加も支えとなり、輸出は同+2.6%と2四半期連続で増加している。個人消費も同+0.2%と、前期(同+0.3%)に続いて緩やかに増加している。一方、固定資本形成は同▲1.4%と減少に転じた。建設投資(同▲4.2%減)が大きく減少しており、高金利の長期化や不動産市況の低迷等が影響している。

2024年に入ってから、景気回復の勢いがやや弱

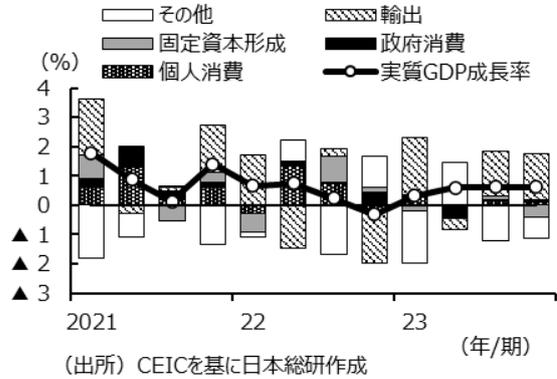
まっている。3月の名目輸出(米ドルベース)は前年同月比+3.1%と、前月(同+4.8%)から減速している。韓国政府は半導体や自動車といった主力20品目を対象に、貿易金融の円滑化等の面で支援策を講じ、輸出を年間7,000億米ドル(前年比+10.7%)へ増加させることを目標に掲げたが、低い伸びにとどまっている。なかでも自動車の輸出が3月にかけて同▲5.3%と2ヵ月連続でマイナスとなった。2023年は米国向けのEV輸出が増加したものの、米国ではEVの普及ペースが落ちており、足元の輸出減少につながった。一方、半導体輸出は同+35.8%と大幅に増加しており、21ヵ月ぶりに最高額を更新した。AI向け等メモリー需要が堅調である。ただし、輸出全体で見れば、自動車向けの需要の鈍化が重しとなり、伸び悩む可能性がある。

内需の増勢も鈍化している。2月の小売売上高(季調値)は前月比▲3.1%と減少する等、個人消費は勢いを欠いている。設備投資の面でも、機械投資が同+10.3%と増加したものの、建設投資は同▲1.9%と減少し、全体の足を引っ張っている。今後の家計の消費活動や企業の投資活動は、物価高や高金利を背景に力強さに欠ける展開が予想される。2024年の実質GDP成長率は+2.0%と潜在成長率並みの伸びにとどまる見通しである。

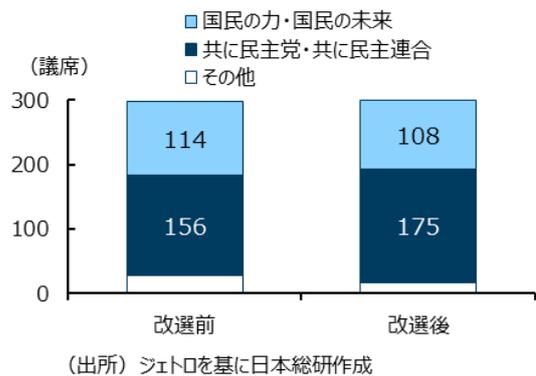
■韓国総選挙、最大野党が過半数を獲得し大勝

4月10日に行われた総選挙では、野党「共に民主党・共に民主連合」が過半数を上回る175議席を獲得した一方、与党「国民の力・国民の未来」はわずか108議席の獲得にとどまった(右下図)。与党は発足当初からの議会の過半数割れを解消できなかったうえに、野党が革新系新党「祖国革新党」と組むことで、野党連合は法案を迅速に採決できる180議席を超える見通しである。今回の選挙結果によって、尹政権による政策推進力の低下は避けられそうになく、中長期的な成長力を高めるうえで重要な労働市場や年金制度等の構造改革が難航する可能性が高まっている。

<実質GDP成長率(前期比)>



<政党別獲得議席数>



当レポートに掲載されているあらゆる内容の無断転載・複製を禁じます。当レポートは単に情報提供を目的に作成されており、その正確性を当行及び情報提供元が保証するものではなく、また掲載された内容は経済情勢等の変化により変更される事があります。掲載情報は利用者の責任と判断でご利用頂き、また個別の案件につきましては法律・会計・税務等の各方面の専門家にご相談下さるようお願い致します。万一、利用者が当情報の利用に関して損害を被った場合、当行及び情報提供元はその原因の如何を問わず賠償の責を負いません。